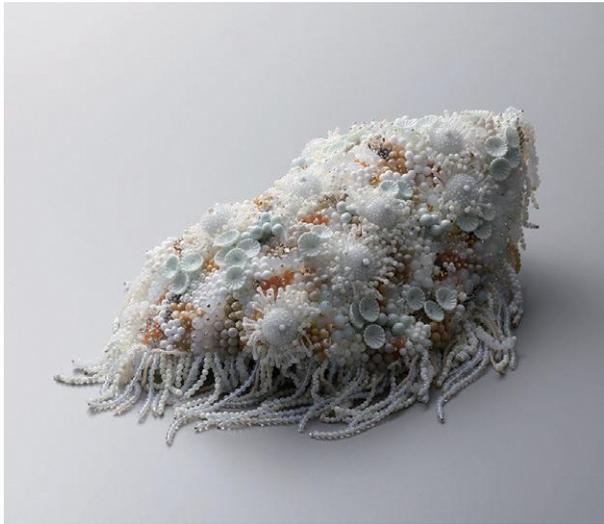


1 アナザーワールド:不思議でリアルな世界 展示室1-3 [2・3F]

2023年 3月4日[土] ▶ 6月18日[日]

本展覧会は、まさに現在(いま)を生きる7名の作家によるガラス作品を、「アナザーワールド」としてご紹介するものです。ガラスという二面性を持つ素材ならではの表情を見せる作品、約70件が展示されます。現実と地続きにある「不思議でリアルな世界」との出会いを、どうぞお楽しみください。



木下結衣《蘇生 II》2021年 作家蔵 撮影:林周悟

2 日本近現代ガラスの源流 展示室1-3 [2・3F]

2023年 7月8日[土] ▶ 10月9日[月・祝]

国内では大正期から昭和初期にかけて、本格的に自己表現としてのガラス制作に取り組む作家が現れ始めます。戦後にはガラス会社に所属するデザイナーが数多く活躍する一方、独立した立場で制作を行う動きも次第に見られるようになっていきました。本展では日本の近現代ガラス表現の初期から発展期の流れを改めて追いながら、未踏の領域を切り開き、ガラス制作に情熱を燃やしてきた作家達による創造性豊かな作品の数々をご紹介します。



岩田藤七《花器》1960年 新宿歴史博物館所蔵

3 宮永愛子展 展示室1-3 [2・3F]

2023年 11月3日[金・祝] ▶ 2024年 1月28日[日]

「変わりながらあり続ける」をテーマとして、ナフタリン、樹脂、ガラスの彫刻や塩、葉脈を用いたインスタレーション作品で注目を集める美術家、宮永愛子。何気ない日常の出来事を宮永は丁寧に気づきとして掬い上げ、息を呑むような美しい作品へと昇華させます。本展を機会に、ガラスとじっくり向き合う時間を得た宮永は、人々を魅了するこの素材を「富山」でくまなくひもといた新作を発表します。作品に通底するじんわりとした温かさが染み渡り、皆様の心の霞が少しでも晴れわたることを願います。



宮永愛子《Strata》2018-19年 撮影:木奥恵三 ©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art Gallery

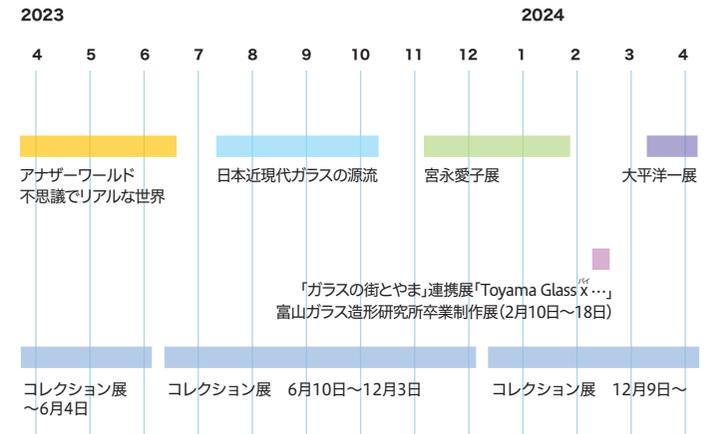
4 大平洋一展 展示室1-3 [2・3F]

2024年 3月9日[土] ▶ 6月23日[日]

ガラス製造で栄華を極めた地、ヴェネツィア。1973年に渡欧した大平はかの地に活動拠点を構え、以後38年間に渡りヴェネチアン・ガラスの歴史を研究しつつ、その高度な技術をもつガラス職人達と共に作品を発表してきました。没後初の回顧展となる本展では、国内外の所蔵作品を始め、創作の源泉であるドーイングなど関連資料をあわせて展示します。日本とヴェネツィアの文化をつなぐ架け橋となるべく、新たなガラス表現の創造に半生を捧げた大平の活動を、デザイナーと研究者という2つの側面からご紹介します。



大平洋一(左)《モザイク・ガラス「輪」》1996年 (右)《モザイク小ガラス瓶「謝肉祭のマント」》1996年 富山市ガラス美術館所蔵 撮影:末正真礼生



※記載内容は変更する場合があります。